

第2510地区 第11グループ



2010~2011

The Weekly Report of

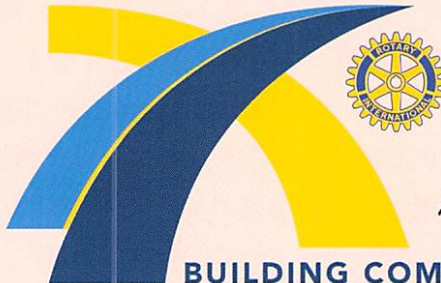
Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2010~11年度
国際ロータリーのテーマ

2010~11年度
国際ロータリー会長

地域を育み、 大陸をつなぐ

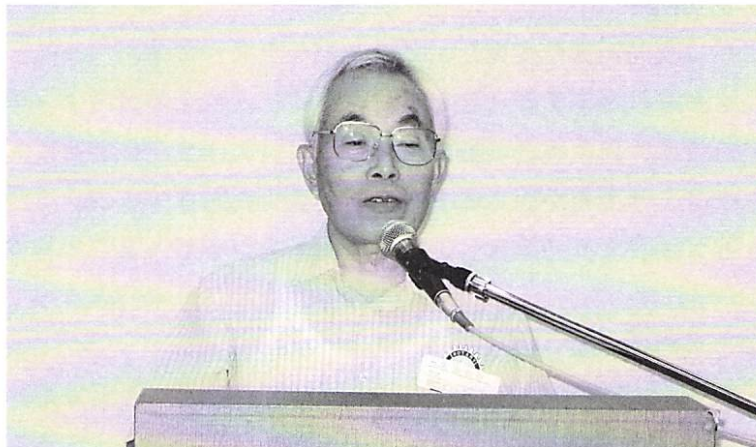


レイ・クリンギンスミス

Ray Klinginsmith

BUILDING COMMUNITIES
BRIDGING CONTINENTS

阿部誠太 会長 テーマ — ロータリー精神の初源に帰ろう —



7月28日 卓話 前高等学校教師 高瀬 則彦 氏

《第2254回例会》 第5号 8月4日(水)

本日のプログラム

夜間例会「納涼ビールパーティー」

於 函館国際ホテル

★会長 阿部誠太 ★幹事 増山 正

例会場：函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 二子ビル4F TEL23-3870

土木・建設・鉄筋工事業 北海道知事 渡島(般-17)第2968号



株式会社 イズミ鉄筋工業

代表取締役 泉 彰

鉄筋基幹技能士：菅野 幸夫・中村 圭輔

厚生労働大臣認定 鉄筋一級技能士：

新屋敷幸三・嘉義 俊昭・泉 昌樹・秋田谷 勇・高橋 亘・滝澤 潤
玉井 利勝・秋元 輝彦・本庄 智彦・佐藤 哲也・佐々木弘幸

〒041-0262 函館市古川町474番地の1 TEL 0138-58-3954 FAX 0138-58-3961

(広告掲載：泉 彰 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

【8月3日現在のアクセス数：10246件(+46件)】

◎7月14日出席報告 (小河 博保 副委員長)

会 員	25名	出席率対象会員	25名
		出席規定免除会員(a)	0名
		出席規定免除会員(b)	0名
当日出席	21名	当日欠席	4名
他クラブ出席	4名	出席合計	25名
出席率		100%	

・テレフォンサービス(例会移動案内) 電話 26-3170番

次回・8月11日
プログラム

自主休会

8月18日

会員卓話「会員増強月間にちなんで」

深瀬 晃一 会員増強委員長

7月28日の記録

◎司 会 阿部 誠太 会長 ◎齊 唱 我等の生業、四つのテスト

◎ゲ ス ト 前高等学校教師 高瀬 則彦 氏

◎ビジター 函館五稜郭 R.C. 林 真彦君、奥田 武彦君

◎会長報告 阿部 誠太 会長

○本日の例会は、会員100%出席です。

◎委員会報告

○I C 委員会 弗田 和則 委員長

北クラブのホームページ、新しく更新しましたのでぜひ見て下さい。

◎幹事報告 増山 正 幹事

○次週例会（8月4日）は夜間例会に変更し、ビールパーティーです。

ビンゴゲームの景品もお忘れなくお願い致します。

○当クラブ8月11日の例会は、自主休会に変更です。

○千葉港ロータリークラブより会報が届きましたので回覧いたします。

○他クラブ情報です。8月10日(火)函館東 R C、10日(火)函館セントラル R C は自主休会になっております。

○地区大会出欠の返事を早めにお願ひ致します。

◎親睦活動委員会 小河 博保 委員長

ニコニコ BOX 投入報告

阿部会長・森 会員・藪下会員・山下(宜)会員・弗田会員・斎藤会員・増田会員・南木会員

松橋会員……ゲストスピーカー高瀬先生を歓迎して、よろしくお願ひします。

藤田会員・深瀬会員……本日の例会、出席100%おめでとう。

◎卓話 「歴史的ものの見方・考え方 その2 -過去の事実の分析-

前高等学校教師 高瀬 則彦 氏

歴史を教訓とするとは、どうゆうことであるのか。同じことを繰り返さない、過ちをしない、そうゆうことを意味していると考えますが、その前提となることは、過去の事実の把握と分析である。しかし、事実の把握と分析は一様ではない。

司馬遼太郎氏によれば「歴史は百年経過しなければ生乾きである」という。関係者が存命中は何かと制約があったり、生き証人ともいえる人物が何ら後世に語ることもなく、「墓場まで持っていく」と

なれば、事実の把握は容易なことではなくなる。

今回の卓話にあたって、我が国現代史の核となる激動の昭和史から、太平洋戦争にかかわる事例を取り上げて見ようとする。いまだ百年を経過しない生乾き状態で、歴史の評価はなお揺らいでいるが、終戦記念日も近いことから敢えて取り上げて考えたい。

・「鉛の旅」吉野せい（1899～1977）

この本は、1975年に第六回、大宅壮一ノンフィクション賞をとった本です。

著者のせいさんは、農家に嫁いであまり外へ出たことがない人ですが、終戦の少し前、昭和20年2月に息子が赤紙で徴用され、会津若松にあった兵舎に会いに行く途中の汽車の中で、向かいの席に座った出征兵士との会話を基に書いたものです。

『偶然に向かい会わせた未知の一兵士にさえからまりつく限りない悲しみは、凡そ兵と名のつくどの一人一人にもいろいろにこびりつき、取り巻く無力の家族の胸の奥底に音も立てずに煮えたぎっているのであろう。』

⇒ 過去の事実を認識する第一の方法は、当時の記録にあたることである。しかしながら公的な記録はえてして機械的な記述、無味乾燥な記述であることが多い。歴史認識で大切なことは、過去に投入し、その時代の人の立場にたって理解することである。残された日記や回想録、あるいは脚色されているものの、事実に基づいたノンフィクション作品などは過去を再現する手がかりとなる。

・太平洋戦争（1941～1945）

1931年（昭和6年）の満州事変から1945年（昭和20年）までの間、政府は戦争の名称を「満州事変」「支那事変」「大東亜戦争」としていたが、戦後占領軍はそれらの公的使用を禁じ、米国と日本の戦争が太平洋で行われたという観点から「太平洋戦争」という名称を用い、それが一般化した。

しかしそれでは日本と中国の戦争は捨象されるので、1931年の柳条橋事件から1945年の終戦までを「十五年戦争」という用語が提唱された。

・極東国際軍事裁判（東京裁判 1946～1948）

東京裁判は、戦争指導者と残虐行為責任者とを人道の名で断罪した。

A級戦犯（侵略戦争計画者として「平和に対する罪」を問われた者）として、被告28名中病死2名、発狂1名、絞首刑7名、終身刑16名、禁固刑2名であった。

B級・C級戦犯では、ソ連を除く地域で、起訴されたのは6416名で、この内死刑が937名であった。

⇒ 戦争犯罪とは何なのか？。敗者だけが裁かれるものなのか。原爆投下、東京大空襲、無差別じゅうたん爆撃、終戦後の引き上げ船の撃沈、シベリア抑留などは不問にできることなのか。

敗れた者にすべての非があるとし、勝った者が勝利と正義感に酔いしれるのは戦争の常である。帝国主義列強が覇権をかざし、衝突を繰り返した当時の国際情勢を客観的に認識し、勝者も敗者もない公正中立な歴史感が求められる。